

おかげさまで 開校30周年!

あやめ野中学校は、今年度開校30周年を迎えます。学校だよりで開校当初の思い出を連載しています。これは、連載コーナーをまとめたものです。

【学校だより 4／9 第1号 あやめ野中学校開校30周年】

あやめ野中学校は、平成元年に開校し、今年度30周年を迎えます。本校は、21世紀の最新の教育を模索するために「教科教室型」を全道で唯一、他に先駆けて実施した学校です。

校舎は日本建築学会が設計し、当時、東日本で最も優れた設備を有していました。そのため、開校年度と翌年は、全国各地から年間100件の視察が訪れる、各方面から注目された学校です。

地域や保護者の皆様に支えられ、おかげさまで、今年度30周年を迎えます。この節目の年、10月31日に記念式典を行う予定です。今年度も今まで同様、変わらずご支援、ご協力をよろしくお願いします。

【学校だより 5／10 第2号 教科教室型の試行】

あやめ野中学校は、平成元年に開校し、今年度30周年を迎えます。開校当初、21世紀の教育を模索し、「教科教室型」を試行した唯一の学校です。

教科教室型とは、各教科の学習専用の教室があり、そこに生徒が毎時間移動して授業を行う形態です。たとえば、社会科の部屋には、教室一面に世界地図、日本地図や歴史年表が掲げられ、教室自体がその教科の学習スペースになっており、生徒が教室に入ったときからその教科の学習の環境ができていくというものです。また、本校には、いくつかの学習メディアと呼ばれる空間があり、それらも学習に利用されていました。

しかし、開校初年度の試行により、教科教室型の長所を生かすためには様々な施設の工夫が必要であることがわかりました。例えば、アメリカのハイスクールドラマによく見られるような生徒個人のロッカーが全員分必要であり、一般的な中学校の施設では教科教室型を効果的に行うことは難しいという結論になり、通常の中学校と同じスタイルに落ち着きました。

【学校だより 6／11 第3号 盛んな部活動】

開校当初のあやめ野中学校は、各学年5学級、生徒数600名を超える今よりもかなり規模の大きな学校でした。野球部、ソフトボール部、陸上部、卓球部、バドミントン部、バレーボール部、バスケットボール部、ウインドアンサンブルが開設され、活動はかなり盛んでした。それぞれに輝かしい結果を残していましたが、ソフトボール部、男子バスケットボール部は全道大会、全国大会へ駒を進め、強豪校として有名でした。その当時のバスケットボール部の指導者は、鈴木校長でした。また、伝統のウインドアンサンブル部も本校の8代校長、木村七郎先生の指導の下、各種コンクールで金賞を受賞し、その名を轟かせていました。

【学校だより 7／24 第4号 校名の由来】

「あやめ野中学校」。家庭や地域に支えられ、開校30周年を迎えます。平成元年の3月26日に開校式が行われ4月1日より「あやめ野中学校」がスタートしました。開校の準備段階では、「仮称 月寒東地区中学校」として扱われていたあやめ野中学校ですが、近くに東月寒中学校があったため、似たような呼称では混乱を招くとして様々な校名が検討されました。最終的に、「緑陽中学校」「月寒中央中学校」「月寒緑中学校」そして「あやめ野中学校」の4つの候補に絞られました。一般的には、地名を校名に使うことが多いのですが、この地域に親しまれている菖蒲園やすでに開校していたあやめ野小学校にちなんで、「あやめ野中学校」の校名が最終的に採用されました。すてきな校名をもらいスタートしたあやめ野中学校。特別に取り決めをしたわけでもないのですが、なんとなく紫色がスクールカラーのようになり、開校当時の部活動のユニフォームには紫を基調としたものが多くありました。



【学校だより8／28 第5号 手作りの学校祭】

2学期には大きな行事が続きます。1学期の終わりから、そして夏休み中も生徒会役員の皆さんは、2学期の大きな行事へ向けて準備をしていました。

生徒会活動の活発さは、開校のときからの伝統です。開校の初年度は、月寒中、東月寒中から移籍してきた2年生、3年生を中心に生徒会役員が結成されました。開校すぐの5月に生徒総会を行うなど、短時間で精力的に生徒会活動が始まりました。初の学校祭、テーマは「Big Bang」。

悠久の昔、宇宙は巨大な物質の大爆発からはじまったと言われています。それを通称「Big Bang」と呼んでいます。それにちなんで、あやめ野中学校の初年度のテーマとなりました。平成元年9月、「手作り、オリジナル」をスローガンに、様々に工夫された学校祭が行われました。今のあやめ野祭につながるすてきな学校祭でした。

今年度のあやめ野祭は9月27日（木）に行われます。

【学校だより9／28 第6号 あやめ野音楽祭】

今年度の合唱コンクールは、10月26日に行われます。今も、昔も合唱コンクールでいい歌を歌おうと、生徒は一致団結して頑張ります。担任も合唱コンクールの取組を通して学級の成長を願っています。最高の合唱をめざして、金賞をめざして、担任、生徒共に頑張る行事です。

本校が開校した当時は各学年ともに5学級がありました。3学年、15名の各担任がなにより合唱を大切に、各学級が切磋琢磨していました。本校の合唱コンクール、あやめ野音楽祭で金賞を獲ることが学級の最高の荣誉になっていました。

当時は、課題曲と自由曲の2曲に取り組みねばならず、今よりも練習時間が多かったかもしれません。課題曲、1年生は「モルダウの流れ」、2年生は「ハレルヤ」、3年生「河口」。特に2年生のハレルヤは古い英語の歌詞で、合唱として大変難易度の高い曲でした。また3年生の河口は、心身共に成長した3年生にしか歌えないスケールの大きな曲で、大海へ向かう河の流れを、義務教育を終え厳しい環境へ向かう卒業生に重ねて、思いを表現する曲です。

当時、熱心過ぎるある担任は、生徒全員分のカセットテープを用意し、パートの音を録音し生徒へ配り、家でも練習をさせていたのが印象的でした。



平成元年第1回あやめ野音楽祭

【学校だより11／6 第7号 あやめ野元年メッセージ】

開校30周年記念式典の学校長式辞の中で披露された、「あやめ野元年メッセージ」をご紹介します。これは、開校当初の生徒会役員を中心に創作されたものです。

あやめ野元年メッセージ
あやめ野畑に建った
ちよつと変わった私たちの新しい学校
その中で その素晴らしい環境の中で
私たちは前進しつつある 一步一步確実に
輝ける明日に向かって
背伸びして ジャンプして
新しいものを求めていく
誰も知らない明日
未来は限りなく遠い
しかし 私たちには未来を創る義務がある
未来は誰にもわからない
だからみんなで創る 私たちの新しい歴史を
新しい先生 友達
見るものすべてが新鮮なこの学び舎で
私たちは築いていく
新しいあやめ野の道を

【学校だより 12 / 14 第8号 開かれた学校 あやめ野中】

あやめ野中学校の開校時のコンセプトの一つに「開かれた学校」があります。今では、どこの学校でも目標に掲げていますが、あやめ野中学校は校舎のつくりにもそのコンセプトを感じることができます。文字通りの「開かれた学校」のために、塀もなく、閉ざすための門もない。あるのは、門柱ではなく、学校名が記された大きな石碑。校舎内にも多目的室、学習メディア、吹き抜けのように、オープンなスペースやつくりがあります。

今も開かれた学校には地域の方々が様々に関わっていただいております。直接的、間接的に本校の教育の一部を担っていただいています。茶道教室、生け花の提供、教材園での作物を育て収穫までの体験、ペットボトルキャップの提供、図書の寄贈、そしてPTAの活動など、様々にお世話になっています。

おかげさまで、この特徴ある校舎のなかで、開校当初から変わらず今も生徒の生き生きとした姿が見られています。



【学校だより 1 / 21 第9号 校章のこころ^{としお}】

本校の校章は、初代校長 田中稔夫^{としお} 先生がデザインしたものです。

全体像は、あやめの花を表しています。中央の円は「心身ともに健康で心豊かな生徒」の育成をめざして、あやめ野の台地に建つ本校の姿を、白い花びらの間の黒は「真・善・美」を求めて本校に学ぶ生徒の姿を象形しています。時代を担うためにたくましく前進する生徒の姿を願ってデザインされています。



これからの社会はその姿が予測しづらく、変化が激しいと言われています。今まさに、新しい時代、未来志向の教育が模索されています。本校は、開校当初から未来へ目を向けていました。

【学校だより 2 / 18 第10号 遺跡の森 T151遺跡 発掘体験】

本校には遺跡の森と呼ばれる緑地があります。現在の学校の敷地全体と付近には縄文時代の遺跡が存在し、「T 151 遺跡」と命名されています。この付近は一般的に月寒台地と呼ばれており、月寒川近辺には、白石神社から上流へ向かって多数の遺跡が確認されています。開校翌年の平成2年度から4年度まで、社会科の授業として、本校敷地内の遺跡発掘体験授業を行いました。現在の遺跡の森とグラウンドの境目付近を、埋蔵文化財調査の方々のご指導の下、縄文時代の土器や石器をたくさんみつけました。貴重な体験をすることができました。

